アーティスト・イン・レジデンス展覧会 2016／秋　展覧会

「カエテミル」

有川滋男《The Figure:PARTⅡ To Darkness》ビデオインスタレーション、2015 年

【展覧会概要】

展覧会名	アーティスト・イン・レジデンス 2016／秋「カエテミル」
日　　時	10 月 22 日（土）－12 月 11 日（日）10：00－18：00　会期中無休、入場無料
会　　場	国際芸術センター青森　ギャラリーA、ギャラリーB
アーティスト	有川滋男、鎌田友介、リ・イェンファ、ジョナサン・シティフォン、レナータ・クルス
主　　催	青森公立大学国際芸術センター青森
助　　成	公益財団法人花王芸術・科学財団、平成 28 年度文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業
協　　力	Atelie Fidalga、AIRS、青森公立大学芸術サークル

【お問い合わせ】

青森公立大学国際芸術センター青森
〒030-0134　青森市合子沢字山崎 152－6
TEL: 017-764-5200 FAX: 017-764-5201 ホームページ：http://www.acac-aomori.jp
担当学芸員：近藤由紀 yukikondo@acac-aomori.jp

【展覧会について】

目の前の世界を見分け、判断し、理解しようとする時、私達は自らが持つ知識や経験を動員します。同じ時代、同じ地域に住んでいると当たり前のものに思われる常識や習慣であっても、それはその時代と地域の歴史や風土が作り上げたものであり、別の時代、別の地域に生きる者から見ると、全く異なる意味を持ったり、理解できないことがあったりします。それだけではなく、同じ時代・地域に生きている者同士であっても私達はそれぞれ異なるように世界を感じています。例えば、ある人にとっては緑に見えたとしても、他の人には青に見えるかもしれません。ある人にとっては居心地のよい場所であっても、他の人にとってはそうではないかもしれません。もしくは、何もないと思っていた所に、突然とても豊かなものがあることに気付くことがあるかもしれません。

芸術作品はしばしば、私達の世界の見方を変えるきっかけを与えてくれます。また、国際芸術センター青森[ACAC]が行うアーティスト・イン・レジデンスでは、滞在するアーティストは自身の拠点を離れ、制作環境を変化させます。また、よそ者であるアーティストが触媒となり、地域の変化を促すこともあるかもしれません。本展では国内外 5 人のアーティストが、様々な「カエテミル（変えてみる）」を試みます。見ている物質や事柄について意味を与えて理解しようとする人間の行為を、意図的に中断・撹拌させることで「見る」ことの意味を問う有川滋男。戦争・エネルギー産業・建築史の調査を基に、記述する者の視点によって変化する歴史の歪みについて考察する鎌田友介。本が内包する時間・記憶・場所と人間のそれとを重ね合わせインスタレーションとして表現するリ・イェンファ（台湾）。身体に装着できるロボットのような彫刻作品を制作するジョナサン・シティフォン（フランス）。個人を象徴する物と世界がいかにつながり得るかを、言葉とかたちの新たな関係によって提示するレナータ・クルス（ブラジル）。アジア、ヨーロッパ、南米と、バリエーション豊かな背景を持つ 5 人のアーティストが、青森に来ることで何を／何が／どう、変える／変わるのか、それを見る私達がいかに変えて、見ることが出来るのか、ご注目ください。

【アーティストについて】

有川滋男（ありかわ・しげお）

有川は、映像、写真、音など制作や鑑賞に時間を内包する媒体を用いて、視覚だけではなく様々な知覚を刺激するような作品を制作しています。本展では、社会には存在しない架空の仕事を設定し、その仕事に従事する人のドキュメンタリー風の映像作品を制作します。更に、映像には複数人がその映像をどう理解したかナレーションが付けられ、鑑賞者は 1 つの映像から様々な想像を誘われるでしょう。

《融解点》2015 年、ビデオインスタレーション

1982 年　東京都生まれ
2006 年　東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科　卒業

【近年の主な展覧会】
2016 年　「Seeing, Not Seeing」（個展）ギャラリーヘルダー、オランダ
2015 年　「ライクスアカデミー・オープン」ライクスアカデミー、オランダ
2013 年　「文化庁メディア芸術祭」国立新美術館、東京

鎌田友介（かまた・ゆうすけ）

鎌田は戦争、エネルギー産業、日本の近代史、建築史などの調査を基に、建築を時代や場所によって様々な意味を孕むものと捉え、立体作品として提示します。本展では日本家屋をモチーフに、アメリカの空爆実験用に建設されたもの、現代日本に残るもの、日本統治時代に台湾や韓国で建設されたものなど、様々な日本家屋が持つ意味や歴史を重ね合わせることで、建築が宿す多面性を浮かびあがらせます。

1984 年　神奈川県生まれ
2013 年　東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程　修了

【近年の主な展覧会】
2016 年　「クレアボヤンス」東京都美術館、東京
2014 年　「D Construction Atlas」（個展）京都芸術センター、京都
2013 年　「D Structure Atlas」（個展）水戸芸術館現代美術ギャラリー第 9 室、茨城

《D Structure Atlas》2013 年、水戸芸術館での展示

リ・イェンファ（LEE Yen-Hua）

リは、人間が持つ記憶や時間の蓄積と、ページの重なりやそこから想起される物語などといった本が持つ構造とに類似を見出し、「本のプロジェクト」と名付けて作品を作り続けています。本展では、人間が心安らぐ場所として探し求める「ホーム」をテーマに、巨大な壁画とインスタレーションを展開します。

2007 年　北イリノイ大学大学院　修了（MFA）

【近年の主な展覧会】
2014 年　「ここが私の家」（個展）ゴンザレス・ガロ文化センター、メキシコ
2013 年　「革新と再創造」国立台湾美術館、台湾
2011 年　「アジアの多様性」チェルシー美術館、アメリカ

《Penetrate》2014 年

ジョナサン・シティフォン（Jonathan SITTHIPHONH）

シティフォンは、身体に装着できるロボットのような木製の彫刻作品を制作します。その作品は人間が身体機能を高めたいと思う欲望を逆手に取るように、実際には動きを制限したり、身体機能の限界を再認識させたりします。本展では、繭の形を模した、中に入ることができる小屋のような彫刻作品を発表します。

《猿の王》2014 年

1983 年　フランス生まれ
2010 年　ブールジュ国立美術学校　修了（MA）

【近年の主な展覧会】
2016 年　「動物寓意譚」（個展）ジェスィット教会、フランス
2015 年　「メタモルフォーゼ」ギャラリーフランシス 1ER、フランス
2014 年　「FINAL」旧大津酒造（アーティスト・イン・阿蘇 2014）、熊本

レナータ・クルス（Renata CRUZ）

クルスは人々がいかに世界と関係できるかを思索し、言葉とかたちの関係を新たに生み出すように、ドローイングやコラージュを用いて作品を制作します。本展では、カレンダーのように青森で過ごす日々の中で生まれるドローイングを展示します。それらのドローイングが生まれる過程では、市民の方に日常生活の中で使っている化粧品や文房具、台所用品などを持ち寄ってもらい、それを描くという試みも行う予定です。

《Área de soltura》インスタレーション、2014 年

1964 年　ブラジル生まれ
1984 年　サンパウロ州立パウリスタ大学　卒業

【近年の主な展覧会】
2016 年　「平日」ブラジレイロ・ブリタニコ・センター、ブラジル
2016 年　「抽象性」フェルナンド・プラディラ・ギャラリー、スペイン
2015 年　「サンドラ・シント＋アルバーノ・アルフォンソ＋アトリエ・フィダルダ」
　　FAL 武蔵野美術大学、東京